

一般社団法人レジリエンス協会 2023年11月公開研究会「SDGs とレジリエンス」  
～地域特質を活かすSDGs 取組みとレジリエントなまちを考える（京都市と高山市）～  
「サステナブル評価指標(日本版)住民向けアンケート版」調査の現状について

芝浦工業大学大学システム理工学部環境システム学科4年

安藤 心瑚

## 【1】 研究概要

本研究では、日本の市区町村の防災・まちづくりについて、誰でも容易に評価できるように UNDRR の各章の内容に基づいて、一般住民を対象とするアンケート調査版の作成を試みる。防災取り組み状況を一般住民目線で検討及び検証することを目的とする。

## 【2】 住民向けアンケート版作成

本研究では、UNDRR “Disaster Resilience Scorecard for Cities (Detailed Assessment)” の「都市を災害に強くするための10の要点」を参考に、各章に合わせ10項目のレジリエンスに関するサステナブル評価指標(日本版)を策定した。一般住民中学生以上を対象とし、各質問5つの評価項目を設け評価を行う。合わせて、防災の観点から、住民の方々の避難行動や身の安全の確保について考察するに当たり、アンケート回答者の居住地や職業、家族構成など細かく質問することとする。

また、サステナブル評価指標(日本版)と組み合わせて実施することで住民の認知や防災意識と自治体の発信行動とのギャップの解消など防災レジリエンスを高めていく契機とする役割を持つ。

## 【3】 住民向けアンケート版 評価結果について

今回の公開研究会に際して、日本国内の4つの地方公共団体に依頼し、サステナブル評価指標(日本版)一般住民アンケートを用いた評価を実施した。特に母数を多く得ることのできたA市の回答より、得られた結果は以下の通りである。

- 小学校区での分析を行うことで、全体として取り組むべき優先順位が明確になった
- 同居家族内の高齢者や介助必要者の有無で比較すると、いずれも有のほうが理解度は高く、危機感がアップしていることが読み取れた

回答者の属性・地域別などを分けし、結果と掛け合わせ考察することで、詳しい分析が可能であり、市の防災・減災の改善対策にデータを活かすことができる。また、各々が防災について考えるきっかけとなることが期待できる。

## 【4】 今後の展望

今後は、サステナブル評価指標(日本版)と合わせた分析を進めると同時に、回答者から寄せられた疑問点や評価実施の際の意見を精査し、評価指標の改善点として反映していく。